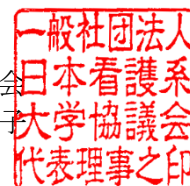


平成 29 年 8 月 3 日 (木)

文部科学省 高等教育局
医学教育課 課長 森 孝之 様

大学における看護系人材の在り方に関する検討会
座長 浅田 尚紀 様

一般社団法人 日本看護系大学協議会
代表理事 上泉 和子



看護学教育モデル・コア・カリキュラム (案) への意見

日頃より、看護学教育について、また日本看護系大学協議会の活動についてご支援をいただいておりますこと、感謝申し上げます。

現在、「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」が取りまとめた「看護学教育モデル・コア・カリキュラム (案)」についてパブリックコメントが実施されています。日本看護系大学協議会 (以下、本協議会という) は、本会の意見として以下のことを提出いたします。本協議会及び看護系大学からの意見を踏まえ、本モデル案の再考をお願いいたします。

1) 看護学ならびに看護学教育の独自性が反映されていない

本モデル案は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則 (以下、指定規則という) よりさらに具体的で細かな教育内容を示しており、看護学という学問構造に基づいておらず、また平成 23 年に発表された看護学教育のコア・コンピテンシーの考え方も活用されていないため、学士課程における看護学教育のモデル・コア・カリキュラムとは言い難い。

策定の過程で、医学教育や歯学教育のモデル・コア・カリキュラムとの整合性のとれた内容にすることが重視されたようであるが、そもそも医学や歯学と看護学は学問体系が異なるので、当然カリキュラムはその学問の構造やコア・コンピテンシーに基づいて構築されるべきである。

「卒前教育の段階でより整合性のとれた内容」 (案の 2 ページ 7 行目) にするため、形式的な整合性を重視するあまり、看護学教育のコア・カリキュラムとは程遠いものになってしまったと言わざるをえない。

文部科学省は、前回の同名の検討会の最終報告で学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標を明示した。会員校の看護系大学では、これらの考え方を基にコア・コンピテンシーや卒業時到達目標に基づいたカリキュラムを編成しており、学習アウトカムを重視した学習者中心の教育を実施していこうという機運が高まっている。そのため看護学の大学及び大学院教育の発展に責任を持つ本協議会は、今回の看護学教育のモデル・コア・カリキュラム策定にあたって、平成 23 年に発表した 5 つの群と 20 のコア・コンピテンシーに基づいたモデル・コア・カリキュラムになるべくワーキンググループ等を通して働きかけてきたが、本協議会の意見はほとんど反映されていない。この点については是非とも再検討して頂きたい。

2) 本モデル・コア・カリキュラムが大学における教育内容の評価基準や大学設置基準に用いられることを危惧する

本協議会は看護学の分野別評価としての看護学教育認証評価機構 (仮) の設置を予定しているが、本モデルは評価基準としてこれまで検討してきたものとは大きく異なっている。また日本学術会議看護学分科会が発表予定である参照基準についても、本協議会主催による研修会を開催し整合性を図ってきた。コア・コンピテンシーならびに日本学術会議の参照基準との共通性、整合性についても再検討してほしい。

以上